

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団	
施 設 名	伊丹市立演劇ホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	5,981	(千円)
	公 演 事 業	3,768 (千円)
	人 材 養 成 事 業	395 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	1,818 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ニットキャップシアター 第41回公演『チーフも鳥の名前』	令和4年1月14日 (金)～17日(月)	作・演出：ごまのはえ 出演：門脇俊輔、高原綾子、澤村喜一郎、仲谷萌 他	目標値	455
		伊丹市立演劇ホール		実績値	404
2	「みんなの劇場」こども プログラム『かえるの？ 王子さま』	令和3年8月7日 (土)・8日(日)	作・演出：いいむろなおき 出演：田中啓介、三浦求、谷啓吾 他	目標値	550
		伊丹市立演劇ホール		実績値	548
3	AI・HALL リーディング 『ジハード -Djihad-』	令和3年9月26日 (日)	作：イスマエル・サイディ 演出：瀬戸山美咲 出演：戎屋海老、加藤智之 他	目標値	210
		伊丹市立演劇ホール		実績値	156
4	九雀の嘶～inいたみ～	令和3年10月16日 (土)	構成・演出：桂九雀 出演：や乃えいじ、国木田かつぱ、 嶋田典子 他	目標値	115
		伊丹市立演劇ホール		実績値	95

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	伊丹想流劇塾第5期	令和3年6月～令和4年1月	【講座】講師：岩崎正裕、サリ ngROCK 【読み合わせ会】演出：岩崎正裕、サリ ngROCK	目標値	参加者 10人
		伊丹市立演劇ホール		実績値	【講座】参加者 12人 【読み合わせ会】入場者 112人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	「みんなの劇場」こどもプログラム『かむじゅうのぼうけん～はじまりのクリスマス～』	令和3年12月18日 (土)・19日(日)	作・演出：まいやゆりこ 出演：芦屋康介、大熊ねこ、葛西健 － 他	目標値	258人
		伊丹市立演劇ホール		実績値	306人
2	アイフェス!! 2022(AI・HALL 中学高校演劇フェスティバル)	令和4年3月27日 (日)・28日(月)	対象：市内中学・高校演劇部	目標値	800人
		伊丹市立演劇ホール		実績値	入場者 568人・参加者 89人
3	中高生のための夏休みワークショップ	令和3年8月	講師：大熊ねこ、藪博晶、土橋淳志、 中嶋悠紀子	目標値	60人
		伊丹市立演劇ホール		実績値	87人
4	こどものための夏休みワークショップ	令和3年7月29日 (木)～31日(土)	講師：砂連尾理 他	目標値	20人・50人
		伊丹市立演劇ホール		実績値	14人・18人
5	土曜日のワークショップ	令和3年4月～令和4年2月	講師：ボヴェ太郎、林英世、小原延之、相原マユコ、井口明子	目標値	320人
		伊丹市立演劇ホール		実績値	330人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>当館は、昭和 63 年以来、関西における現代演劇・現代舞踊の拠点として培った実績、経験の蓄積を活かし、市立の演劇専門ホールとして、独創性に富んだ企画運営や時代に即した良質な作品を創造し、提供している。また、伊丹市総合計画(第 6 次)政策目標「人の絆 まちの輝き 未来へつなぐ 伊丹」の施策実現を目指し、公演事業、人材養成事業、普及啓発事業を有機的に組み合わせ、舞台芸術の力で地域コミュニティの再生と創造を図り、常に活力ある地域社会の構築に貢献・寄与している。</p> <p>令和 3 年度においては以下のミッション・ビジョンをもとに事業を組み立てた。</p> <p>【ミッション】</p> <ul style="list-style-type: none">①現代演劇・現代舞踊の力で常に活力のある地域社会の構築に寄与する。②現代演劇・現代舞踊の拠点として、地域における舞台芸術の振興と発展を図る。 <p>【ビジョン】</p> <ul style="list-style-type: none">①独創性に富んだ舞台芸術を創造・継承・発展させ、多様性を受け入れられる心豊かな地域づくり②交流人口増加と都市ブランドの構築と発信により、地域のにぎわいづくりと活性化を図る③次世代の人材を育てることで、舞台芸術の発展と地域振興に寄与 <p>公演事業は主にミッション②とビジョン②、人材養成事業はミッション①とビジョン③、普及啓発事業はミッション①とビジョン①をもとに事業を計画。当館周辺地域では、まだまだ劇場への敷居が高いと思われるがため、これらを払拭する事業を展開。今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に注意を払いながらほぼ当初の予定通りに進めることができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>令和 3 年度、当館は市当局の方針によって、市民利用率の低さ、多額の指定管理料、施設の老朽化を主な理由として、ホールの用途変更についてのサウンディング調査が行われた。「立地を生かせていない」「市民のニーズと合致していない」「費用対効果が良くない」などと指摘される一方、演劇人からは、機能性の高さや全国的な演劇ネットワークのつながりなどを評価いただき、演劇専門ホールとしての継続を訴える署名活動なども行われた。結果、市当局は今すぐの用途変更を見直し、少なくとも 3 年間は演劇ホールとして運営を継続することを決定。ただし、市民意識調査の結果などをふまえて経営改善を求められることとなり、経費削減の措置がとられ、令和 4 年度の劇場・音楽堂等機能強化推進事業等の助成金申請も見送ることとなった。</p> <p>このような状況下においてはああるが、公演事業【1】・【3】では、海外の歴史や文化を題材とした作品を上演することで多様性を受け入れられる心豊かな地域づくりに寄与した。公演事業【2】普及啓発事業【1】では、就学前の幼児を主な対象に、劇場での鑑賞経験が少ない地域のこどもたちに良質な舞台作品を提供し、豊かな心と感性を育ててもらおうと同時に、劇場を身近に感じてもらい、地域に開かれた劇場になることを目指した。並行して、一般を対象にした演劇やダンスに気軽に触れてもらうワークショップや本格的な演劇講座などを実施。年代や性別を問わず、誰もが日常的に舞台芸術を享受し参画できる環境づくりを推進した。公演事業【4】では、ただ単に落語を口演するだけでなく、古典落語を演劇化した「嘶劇」も上演することで、市内の観客に劇場の新たな魅力を知っていただき、地域における芸術文化の振興・発展の機会を持つことができたといえる。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業】来場者アンケートよりデータ抽出

- ・目標①：事業番号【1】【2】【3】【4】において、入場者率は80%以上の水準を維持する。⇒結果：71.8%
- ・目標②：事業番号【1】【2】【3】【4】において、市内の来場者率の割合を15%に増加させる。⇒結果：23.5%
- ・目標③：事業番号【1】【2】【3】【4】において、地域店舗の利用率を40%以上維持する。⇒結果：60.5%
- ・目標④：事業番号【2】において、こども向け公演に関し、中学生以下の入場者率40%を目指す。⇒結果：39.05%
- ・目標⑤：事業番号【1】【2】【3】において、若年層（25歳以下）の入場者率を28%まで向上させる。⇒結果：16.91%

- ・目標⑥：事業番号【1】【2】【3】【4】において、鑑賞者満足度を75%まで向上させる。⇒結果：79.7%

■所見：新型コロナの影響により、客席数を十分に設定できなかったこともあり、入場者率は目標値に届かなかったが、鑑賞者満足度は高かった。今年度は落語の公演を主軸に市内の鑑賞者の比率は向上した。

【人材養成事業】受講者・来場者アンケートよりデータ抽出

- ・目標①：満足度を90%近くの高い水準で維持する。⇒結果：91.67%
- ・目標②：舞台活動の継続意志を示す者の割合を増やす。⇒結果：令和2年度 91.67%、令和3年度 80.8%
- ・目標③伊丹想流私塾・劇塾（および各マスターコース）出身者による公募制戯曲賞の応募者数7名以上を目指す。⇒結果：5名

■所見：参加満足度は高かったが、今後の舞台芸術活動への継続意志を示す者の割合は未回答者も含まれるため前回からやや減った。戯曲賞の応募者数は戯曲賞の一次選考通過者をカウントしており、特筆すべきは、OMS 戯曲賞の大賞受賞者を戯曲講座の修了生から2年連続で輩出。本事業の大いなる成果といえる。

【普及啓発事業】来場者・参加者アンケートよりデータ抽出

- ・目標①：事業番号【1】【3】【4】【5】において、参加者の満足度を98%まで向上させる。⇒結果：97.1%
- ・目標②：事業番号【1】【3】【4】【5】において、市内の参加率を80%まで向上させる。⇒結果：66.5%
- ・目標③：事業番号【1】において、子育て層の参加率を90%まで向上させる。⇒結果：81.94%
- ・目標④：事業番号【5】において、60歳以上の受講率を40%まで増加させる。⇒結果：46.75%

■所見：普及啓発事業全体としては、参加者・来場者ともに高い満足度を維持できた。市民の参加率は目標に届かなかったが、子育て層や60代以上の年齢層など様々な年代や地域の人々の参加率が高かったことで、講座やイベントが地域交流やコミュニティ形成の場としての役割を担っていると考えられる。

【全体的な所見】どの事業においても、顧客満足度は目標値を達成、またはそれに近い数値を出せた。公演事業で市内の来場者が増えたことは、市民に利用いただく機会をより多く提供するという今後の当館のミッションとも合致した結果となった。この結果を含めてプログラムを考える上での指針にしていきたい。人材養成事業では、修了生の戯曲賞受賞など長年の成果が出始めている。人材養成事業とともに、親子向けの鑑賞事業や、教育に関わる事業など中心に次世代の鑑賞者や表現者の育成につながる事業にも引き続き注力していきたい。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演事業】

事業番号【1】【2】【3】【4】全て予定通りに開催することができた。ただ、新型コロナウイルス感染症の影響はまだまだ継続しており、客席の数を制限する必要性もあったため、動員の目標値を上回ることが厳しかった。

【人材養成事業】

「伊丹想流劇塾第5期」の講座は、令和3年4月25日～6月20日の緊急事態宣言を受け、初回をリモートでの開講とし、以降も当館の時短営業に合わせて講座開始時間を早めるなどの変更を行った。読み合わせ会は、当初の予定通り行うことができた。

【普及啓発事業】

事業番号【1】は、事業期間の変更はなかったが、新型コロナへの懸念もあり、例年行っていたホール内でのランチタイムをなくした。あわせて、上演時間を短くすることで、公演回数を増やした結果、目標動員数を上回った。事業番号【2】は、当初の上演予定通りに開催。昨年と同様、稽古や打合せなどの時間を制限して行った。客席の制限は行ったが、一般の観客も入っての公演となった。事業番号【3】・【4】は当初の予定通りに実施した。事業番号【5】は、プログラムの一つ『自分史をセリフにしてみよう』を緊急事態宣言の影響により初回を延期し、開催。12月終了予定だったが、1月に最終回を開催した。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演事業】

広報面は、チラシの印刷部数を減らしWEBやSNSの広報を強化することや、公演の関係者へのインタビュー記事を作成するなど予算とのバランスをみながら進めた。また、アーティストやスタッフとの連携・協力によって、作品創作に影響のない範囲(制作に係る費用等)で経費削減を心がけ、ほぼ予定通り執行できた。※公演事業全体の要望比 87.55%

【人材養成事業】

講座は運営に支障のない範囲でWEBやSNSを中心とした広報によって印刷費を抑えるなど、経費節減を心がけ、ほぼ予定通りに運営できた。また読み合わせ会は入場無料だったため、照明は地明かりだけ、音響は演出家自らによるギター生演奏と音効操作によって、照明や音響にかかる委託費を抑え事業費を節減することができた。※人材養成事業全体の要望比 80.39%

【普及啓発事業】

講座事業や事業番号【2】などは、チラシを当館のスタッフが作成するなどして、デザイン費や印刷費などの広報費用を抑え、経費節減に努めた。※普及啓発事業全体の要望比 76.87%。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【公演事業】

事業番号【1】は、京都を活動拠点とする「ニットキャップシアター」が2019年に当館で初演。日本とロシアの狭間にあるサハリン島を舞台に、国家間の思惑に翻弄されながらも多様な民族が共生した約100年間の歴史を描いた約3時間の大作。第64回岸田國土戯曲賞の最終候補作にもなった。アンケートには「人同士が共生していくことの難しさと大切さを感じた」という感想もあり、多様性について省察する機会にもなった。事業番号【3】は、ベルギー在住でモロッコ系移民の劇作家イスマエル・サイディの作品を取り上げたリーディング形式の公演。テロや紛争の虚しさ、解決の見えない難民問題などを3人の若者たちの視点を通して等身大に描いた作品。海外の同時代作家の作品を紹介することによって、舞台芸術へのさらなる興味・関心を促した。また、演出家の瀬戸山美咲を短期滞在製作に招聘することで、東西の表現者の交流の機会を創出することができた。事業番号【4】は、落語や曲芸とともに古典落語を芝居にした「噺劇」を上演。演劇専門ホールならではの機構で噺劇も落語も見やすく聞きやすく楽しんでいただくことができた。アンケートでは、観客のうち市内在住者の割合が40.32%と非常に高く、今まで演劇やダンスの上演のみで、敷居が高いと感じていた地域住民が劇場へ来る機会を創出することができた。



【1】『チェーホフも鳥の名前』



【3】『ジハード -Djihad-』



【4】『九雀の噺』

【人材養成事業】

劇作の初歩を実践的に学ぶ「伊丹想流劇塾」とその前身の「伊丹想流私塾」修了生が相次いで公募の戯曲賞を受賞。劇作家として評価を受ける人材を数多く輩出している。近年では、山本正典（劇塾第3期）が第27回（令和2年）OMS戯曲賞大賞を、山本彩（私塾第17期）が第28回（令和3年）OMS戯曲賞大賞を受賞した。



【1】伊丹想流劇塾第5期 講座



【1】伊丹想流劇塾第5期 読み合わせ会

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【公演事業】

事業番号【2】は2019年に当館で初演。いいむろなおきマイムカンパニーにアイホールオリジナル演目として製作を委嘱した作品。傘や新聞紙・段ボールなど身の回りにある道具を駆使したカラフルな演出と「おうちへかえる」というシンプルなストーリーは年齢を問わず楽しめる。来場者アンケートでは27.54%と約3割が市内の来場者であり、地域発の公演として地域住民に注目される演目に発展したと言える。



【1】『かえるの？ 王子さま』

【普及啓発事業】

劇場に足を運ぶ機会が少なかった層をはじめ様々な世代の鑑賞活動の拡大を図り、文化芸術活動の場を提供。

事業番号【1】では、未就学児童を対象に、鑑賞経験の少ない幼少のこどもたちがおやこで参加し、舞台の楽しさを存分に味わってもらうことで鑑賞活動の普及に努めた。また、事業番号【4】とも通ずるが、コロナ禍で保育所・幼稚園・学校などで催し物の発表機会が減っている中、こどもたちが舞台に参加し楽しむ姿を見た保護者たちに、実演芸術がこどもたちに与える影響力の大きさを感じてもらう機会にもなった。

事業番号【3】では、プロの演出家・俳優や他校の部員と交流することで演劇に対する興味や関心を深める機会とし、青少年の舞台芸術活動の参画と拡大を推進した。事業番号【2】は、中学校と高校で実施日程を分けたが、講評会において他校との交流の機会は作ることができた。プロの演劇人からの的確な講評を得ることで、今後の活動の糧とした。事業番号【5】では、講師であるアーティストと市民が近い形で交流することができ、参加者が講師の演出する演劇作品に出演する等、本講座をきっかけに地域の舞台芸術振興の輪が広がっている。



【1】『かむじゅうのぼうけん～はじまりのクリスマス～』



【2】『アイフェス!!2022』

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

・平成 26 年度から劇作家・演出家の岩崎正裕がアイホール・ディレクターに就任し、事業の指針決定や企画運営に携わっていたが、令和 3 年度末でその任を解かれることとなった。ただ、現役のアーティストが芸術監督的役割を担うことで生まれた事業の一部については継続していく予定である。また、約 30 年に及ぶ現代演劇・舞踊に特化した事業実績及び経験の蓄積を活かし、関西をはじめ全国の劇団・カンパニーの招聘、ワークショップやレクチャーの講師としてアーティストを招くなど、地域内外の劇団・カンパニー・劇場と幅広いネットワークと連携・協力関係を活かした企画も実施している。

・状況に合わせて適切な状態で運営できるよう、組織内および事業の関係者間で都度、相談・協力して事業運営にあたった。運営や広報は事業に応じて市関連部局（教育委員会等）と連携して対応している。

・事業成果報告や担当による振り返りなど内部での事後検証を定例的に行ない、また、普及啓発事業などの企画によっては関わった外部スタッフまでも招集して反省会を設け、次年度に向けての事業内容の改善・向上を図っている。

【ネットワークについて】

・これまで、北九州芸術劇場、上田市交流文化センター、三重県文化会館など、多数の他地域の劇場と連携して公演を実施。令和 3 年度は公益財団法人四日市市文化まちづくり財団が運営する三浜文化会館にて、普及啓発事業【1】のツアー公演を開催した。

・インターンシップについて、近年はコロナ禍において実施ができていないが、主に近畿大学をはじめ近隣の大学と連携をとっている。また、令和 3 年度は実施が叶わなかったが、アウトリーチプログラムの研究開発においては大阪芸術大学短期大学部（伊丹学舎）に協力を仰いでいる。

【管理運営面について】

・当館を管理運営する公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団は、文化会館・音楽ホール・演劇ホールのほか美術館・スポーツセンターなど専門的に特化した市内 10 施設の運営に携わっている。また、これら 10 施設の指定管理者であることから幅広い人事交流が可能であり、財団内で人事異動を適宜実施し、多様な業務を経験することで職員の管理運営能力の向上を図っている。いたみ文化・スポーツ財団第三次経営計画（2019 年度～2023 年度）においては将来的に財団運営を中心的に担うプロパー／嘱託職員の増員による人材確保を謳っており、同時に、専門的業務を担当している施設指定採用職員にはより一層の能力を発揮してもらうよう、今後、専門職に位置付けることを検討し、管理職・一般職双方の組織体制の強化を図っている。さらに有期雇用の職員を、順次、無期雇用へ転換し、嘱託職員からプロパー職員の登用の機会を設けるなど、継続的に制作業務に携われる環境の整備に努めている。実際、ここ数年のうちに財団内では嘱託職員からプロパー職員へ内部登用されており、組織体制の強化と充実が図られている